

国立中学校を除く、公・私立中学校における1学級当たりの教員数の推移を昭和41年度から昭和51年度までにおいてみると、私立中学校においては、急激な下降後上昇の傾向を示しており、昭和51年度は昭和41年度に比べ0.39人減少している。公立中学校については、緩慢な上昇傾向を示している(図2-3-12)。

次に、昭和51年度における公立中学校の離職教員及び新採用教員についてみると、離職教員数(退職者等)は84人、新採用教員数は107人(市立養護学校3人を含む。)となっている(「義務教育課調査」(昭51))。

離職教員数及び新採用教員数の推移を昭和45年度から昭和51年度までにおいてみると、離職教員は昭和45年度の107人を最高に、その後は年間72人から84人の範囲で横ばいの状況を示している。

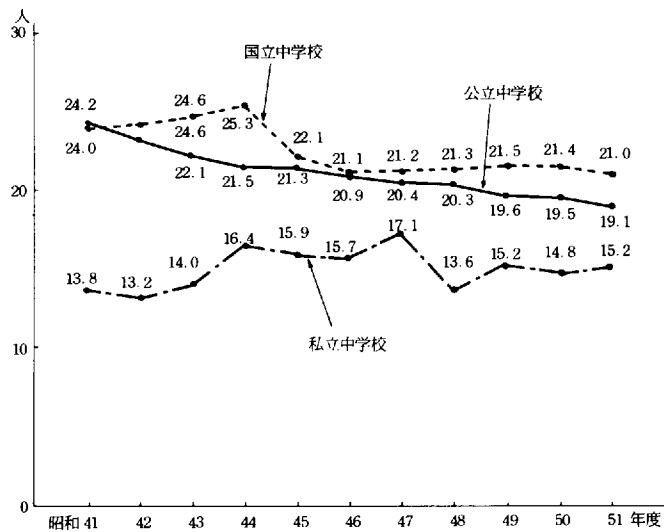
新採用教員については、年々上昇傾向にあり、特に昭和49年度以降の増加は著しい(図2-3-13)。

昭和49年度以降に新採用教員が増加したのは、「第2節小学校教育第2項教職員」で述べたとおりである。

なお、各年度における離職教員数と新採用教員数の差をみると、昭和45年度から昭和48年度までは新採用教員数が下回っているが、昭和49年度は18人、昭和51年度は23人それぞれ新採用教員が上回っている。

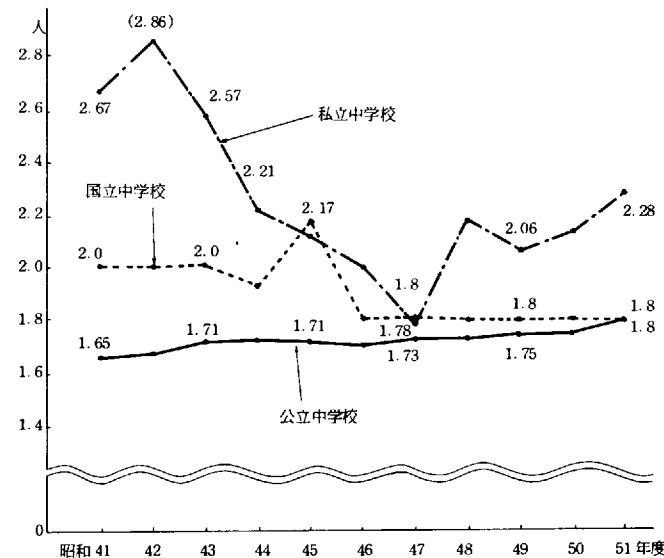
また、昭和51年度における公立中学校の新採用教員(107人中一般教員87人のみ)について、地域別配置状況を見ると、最も多い地域はB地域の36人、次いでC地域の33人、A地域の14人、特

図2-3-11 教員一人当たりの生徒数の推移



注：1. 「学校統計要覧」(昭41～昭51)による。  
2. 生徒数=(構成別生徒数)÷(構成別教員数)

図2-3-12 1学級当たりの教員数の推移



注：1. 「学校統計要覧」(昭41～昭51)による。  
2. 教員数=(構成別教員数)÷(構成別学級数)